

令和8年度入学試験 小論文（前期日程）出題意図

設問1

近年議論されている関税政策やコメ政策を題材とし、消費者や生産者など複数の利害関係者が存在する中での政策決定の難しさを理解するとともに、その中で望ましい政策のあり方について考え、説明する力を問う問題である。

問1

コメに関する日本政府の関税政策が変化した場合を想定し、その影響が国内の経済主体（消費者と生産者）にどのように異なって現れるのかを、資料に基づいて説明する力を問う問題である。図表や文章資料から必要な情報を読み取り、それらを政治・経済に関する基礎的な知識と結び付けながら、根拠を示して論理的に説明する力を測る。また、資料から得られる情報の中から重要な点を取捨選択する力も問うている。

問2

①および②では、食糧政策をめぐる政府の方針と、日本のコメ生産を取り巻く現状を資料から読み取り、それらを現実の課題として整理したうえで、コメの輸入拡大について賛成・反対双方の立場から考察し、資料に基づいて説得的に論述する力を問うている。
③では、すべての経済主体に利益をもたらす政策を実現することの難しさを踏まえつつ、どのような方法をとれば課題の改善につながるのかについて、資料から読み取った内容と受験者自身の考えを結び付けて説明する力を問うている。

設問2

地球の環境保全や温暖化対策の観点から、非枯渇性でCO₂や汚染物質の排出が少ないグリーンエネルギー源の果たす役割は重要で、特に洋上風力発電は我が国の国産エネルギーとしての意義も大きく、その大規模導入が切望されている。一方で、水深などを考慮した設置場所の選定、漁業・海運業関係者との合意形成など課題が山積している。本設問は、洋上風力発電の特徴や課題などに関する多様な資料を提示することで、受験生の読解力、分析力、論理的思考力、表現力等を問うている。

問1

(1)

定量的な議論が可能となる数式を導かせ、単位も含めて、その内容の理解力を測ることで、論理的思考力、科学的思考力を問うている。

(2)

日本における各種発電方式の特徴、陸上および洋上の風況分布や自然条件、社会条件等の資料を読み解き、風力発電全般のメリット、デメリットを説明する問題である。資料を正確に分析する力と、一般的に知られている特徴に加えて、数値から読み取れる内容を理解する思考力も問うている。

問2

将来的な洋上風力発電の大規模導入に関して、それを達成する意義、解決すべき課題、法整備や行政機関の関与について記述させることで、問題文および提示資料から読み取る読解力や分析力、それらを説明する表現力、また、提示されたデータや情報に基づいて課題解決に向けた方策を説明する能力を問うている。